第４回　福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会　議事録

日　時：2017年 5月9日（火）9:30-12:00
場　所：福井市役所8階　第3委員会室
出席者：策定委員　　小原委員、古石委員、友廣委員、中嶋委員、野坂委員、野嶋委員、長谷川委員、堀内委員、山崎委員
石丸委員（欠席）、今村委員（欠席）
資　料：議事次第、委員名簿、福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会　説明資料、第１回ワークショップかわら版、長野市芸術館施設パンフレット

事務局　■次第１　開会
■次第２　委員について
自己紹介
■次第３　協議事項
「福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会　説明資料」の説明①
１　基本構想の確認
（１）基本構想策定の背景
（２）文化会館の現状
（３）福井市文化会館の必要性と将来像
（４）基本理念
（５）今後の整備方針
２　基本構想のパブリック・コメント

Ａ委員　パブリック・コメントの意見が少なかった。委員会では市民感覚を欠かないよう審議をしたい。金沢２１世紀美術館のようなスタイルが確立できたら、まちづくりにも役立ち、市民の文化振興にも役立つ。

Ｂ委員　市民の方の意見というのは一番大事だが、普段から文化芸術に携わっているような、専門知識を持つ方々の意見も今後求めていくべきではないか。

事務局　昨年度基本構想策定の段階で、関係する団体には意見をいただいている。それらの団体の方はすでに意見を出されているので、改めてパブリック・コメントはされていないのかなとも思っている。昨年基本構想をまとめている段階で、専門的知識を持つ方や団体等の意見は取り入れていると認識している。

Ｃ委員　パブリック・コメントも少ないとは思うが、実際に使う人たちの目線の意見というのも何かいただければ良いかと思う。

事務局　今年度に入ってからまた改めて市民ワークショップを募集し、第１回目が４月１２日に開かれた。参加者には、劇団員などの演者側の方もおられ、それぞれの立場からの意見も入っているので、そういった意見などもまたこの委員会でご紹介させていただいて、ご判断いただく参考にしていただけたらと思う。

Ｄ委員　今はまだ建替に関することが具体的に明確になっていない状態。今後具体化していくとニーズがはっきりしてきて、学校・団体等から要望やリクエストが出てくるのではないか。

Ｅ委員　パブリック・コメントに「文化会館をつくることが目的になっていませんか」という意見がある。文化を振興することが目的の施設なので、利用者のこと

を考えるのが大事。文化会館建設を機会に、文化振興を進める仕組みも一緒に考えていくとよいのでは。

Ｆ委員　施設についてもう少し具体的にならないと意見が出にくいのではないか。場所もわからないということでは、どういったものを作れば良いかわからない。提案でも良いのである程度のたたき台を示さないと市民意見は出てこない。芸術に関する施設なので独自性がないと後世まで残らない。全部の意見をまとめると当たり障りの無い、印象に残らない施設となるので、施設整備は簡単ではない。

Ｇ委員　具体的な案を示してもらえると議論が進む。具体案を基に何度か修正していく流れがよいのでは。ワークショップなどの意見も反映しやすくなる。

Ｈ委員　つくる過程から市民の方々も巻き込み考えるべき。整備する過程の中で、文化をどう発信していくかということも合わせて考えていくべきなのではないか。

事務局　「福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会　説明資料」の説明②

３　施設計画について

（１）現在の文化会館施設概要

（２）目指す方向市と施設機能の再確認

・目指す方向性の実現化に向けての例示

（３）一般的なホール規模別利用イメージなど

・ホール客席規模と演目について

・ホールの性格づけ（鑑賞・発表機能のイメージ）

・施設構成パターン案

・施設パターンによる概算面積案（延床面積）

・施設の事例①　白河文化交流館　コミネス
施設の事例②　三田市総合文化センター　郷の音ホール
施設の事例③　長野芸術館
施設の事例④　可児市文化創造センター　aLa
施設の事例⑤　新潟市民芸術文化会館　りゅーとぴあ
施設の事例⑥　上田市文化芸術センター　サントミューゼ
施設の事例⑦　北上市文化交流センター　さくらホール

・参考写真（諸室）

・参考写真（多様な利用例）

・諸室レイアウトイメージ案

・中核市における代表的なホール一覧

（４）ワークショップ・関連機関の意見

（５）PFI手法などについて

・事務局としては、だいたいの施設規模イメージを共有してもらい、そういう施設のために、今の場所か新たな場所かということを考えていけたらと思っている。

・事例についての建設費
長野市：約89億円／三田市：約70億円／可児市：約100億円／白河市：約90億円／新潟市：約100億円／上田市：約99億円／北上市：約75億円

Ｂ委員　予算や場所等、制限が発生するものについてどの位具体的に検討されているのか。条件が明らかにならないと話ができない。良いものを作るというのは当然お金がかかってくる。市民意見を反映する必要があるし、文化団体だけが使うものであってもならない。

ＰＦＩ手法についても、施設規模や運営をどこまでまかせるか等によりメリット・デメリットがある。

事務局　予算の話があったが、事務局としては、施設の中身がある程度決まってから費用の検討を行うという順を取らせていただきたいと考えている。本日大ホールの説明を主にさせていただいたのは、ホール席数について概ね意見集約いただければそれに付随したものを、場所を含めて次回提案できると考えているからである。

Ａ委員　福井市の歴史の中で貴重な展示空間が消えていった。文化会館と名乗る以上は劇場だけでなくて、舞台芸術以外の文化のことも考慮してほしい。劇場だけでなく、展示空間を確保する、人が寄り添って話し合う、憩う、交流する空間をつくるなどを広く含めた文化会館でないと反発が起こる。委員会で文化会館の位置づけしなければ、事務局でも予算を立てるということができない。必要な機能を定めて初めていくらかかるか出すことができる。予算に縛られて欠陥だらけの文化会館なら作らないほうが良い。
中途半端なものでなく市民はもっと高いレベル、本物を見たいと望んでいる。演者も本格的に演じたい。福井から文化を発信できる、誇れる施設としての規模を考えて欲しい。富山からも石川からも滋賀からも福井に行こう、というような施設を是非作って欲しい。

また、福井市だけでなく広域的に考えなければいけない。お客様が周辺にたくさんある。福井から文化を発信しようと思うと最低1,400は必要かと思う。福井市の人口だけで考えるのでなく、広域的なものとして考えた方がよい。PFIについて初期費用は抑えられるものの、デメリットの方が大きいと思う。PFI手法はとるべきではないと考える。

Ｅ委員　場所が大事。建築というのは場所があって、場所を読み取ってそれに適した空間をつくるというのが建築家の役割。

Ｆ委員　福井市の適正規模ということで考えた場合、福井市の現状や人口を考慮すると1,200～1,400席が適正なのでは。必要となる機能については立地との関係で住み分けできる。例えば駅の近くに建設するなら、交流ができる施設にしてはどうか。コンベンションの視点からすると、面積は足りないかもしれないがフェニックス・プラザの駐車場のところに文化会館をつくって、通りを隔てて２階をフェニックス・プラザと連結することもひとつの方法かと思う。駅前に建てるのが一番適切かと思うので、候補地があればよいが、土地取得が必要となると建設がなかなか進まない可能性があり、面積も十分にとれるか不明。いずれにしても100億円を超えない範囲の予算で進めてもらわないとだめかと思う。

事務局　市としても施設の適正規模という考え方を持つ必要があると考えている。議論の進め方には、まず予算ありきでその中で何ができるかを検討する方法と、施設には何が必要なのかを検討しその実現のために予算を調整する方法とがあると思う。

Ｃ委員　平均利用人数では行政の1,235人が一番平均人数で多く、他は学校の利用が多く、その利用人数が1,000人ちょっとということを考えると1,200席くらいが妥当なのではないか。高校生になるとなにか練習する場、発表する場が欲しいということになってくると思うので、もう少し小さいものも欲しくなってくるのでは。事務局案の中では第２案が一番いいかと思うが、立地場所に

よって大きく変わってくる。何を中心にして決めていくのかが決まらないとそれぞれの意見を集約できないと思う。

Ｄ委員　高齢化社会や人口減ということも視点におかないといけない。子どもたちに良いものをみせるためには良い音響のあるホールがとても大事である。良いものを見せるというのは教育において一番良い刺激にもなる。何に焦点を当てるかについて、どれもメリット・デメリットがあるが、基本構想の際に各委員から意見の上がった「本物の芸術をここの場所に持ってくる」という理念は崩したくないと考える。

Ｇ委員　芸術文化というところを一番の軸に据えるという話だったので、当然ながら演劇にもきっちり対応できるホールであるというのが大前提。場所的には利便性を考えるべきであるが、駐車場が少ないなら回遊するバスをその時間帯だけ臨時で出すというような工夫もできる。舞台に軸を据えるということであれば1,000人～1,200人くらいの席がいいのではないか。多機能的なところをどうするかという点において、例えば大ホールは美術、演劇、音楽に対応できるものがあるとしてリハーサル室や諸室をどのような機能を持たせるかということで考えていけばいいのでは。事例に出ていたホールについて、どの位の人口でどの位の稼動率があるのか、どんな使われ方をしているのかを調べて欲しい。そうすれば必要な機能について比較もしやすいのではと思う。

委員長　規模の適正ということで考えると1,000～1,200という意見が多かった。ヨーロッパの地域劇場の調査を行った際、地方都市の場合は大きな規模のホールはなく、舞台と客席が非常に接近している印象がある。それから、社会的包摂という視点が積極的に出されていた。皆が統合して共存していけるような社会をどう作るか、といった視点で公共施設を設置維持運営していく。芸術文化というのは市民のコミュニケーションの土台であり、芸術文化に関わることによって市民の芸術の意識が高まっていくだろうと思っている。これから人口減の時代で、若い世代が福井で暮らして学んでいく中にあって、ずっと暮らし続けたいと思えるような、そういう視点でこういった構想していけたらと考えている。

Ｂ委員　今流出していこうとする若者をどうやってとどめるか、もしくは文化芸術を福井の人が理解し、とどめるかということが大事。コミュニケーションということを考えたときに、文化会館に行けばいつでも何かが生まれる、文化を吸収できる、認識できるといった施設にする必要がある。この施設をどうやってフル回転させたらいいかという企画構成を持って行くことが一番大事。良いものがあれば絶対に全国から芸術家・演者が集まり、その方が文化会館で良い物を見せれば、福井の文化向上、発展に繋がる。

事務局　■次第４　事務連絡
次回第５回委員会日程について、近日中に日程調整し、改めて決定。

事務局　■次第５　閉会